



これで安心！夏休み「読書感想文」講座



夏休みの宿題の一つとして、多くの学校が取り組んでいる「読書感想文」。読み取りが苦手で文章表現が不得意な子どもにとっては、抵抗感が大きく、保護者にとっても悩みの種ではないでしょうか。今回の講座では、小学生を持つ保護者の皆さんに、読書感想文にふさわしい本の選び方や感想文の書き方、本を通しての親子の関わり方などについて講師の先生からお話していただきました。

- 日 時：平成25年7月20日（土） 10:00～12:00
- 会 場：小郡地域交流センター 視聴覚室
- 講 師：下関市立江浦小学校 教諭 前田 真奈美 氏
- 参加者：38人



【前田 真奈美 先生】

【前田先生のお話から…】

1. はじめに

読書感想文を書く前に知っておきたいこと…

- ・読書には発達段階があります。「読書の自立」のためには、3つの大きなハードルを乗り越えないといけません。それが、「一つの川」と「二つの山」です。

「言語環境川」・・・5～6才の頃、跳び越えなくてはならない川です。「文字」と「文章」は別物です。「字」が読めるようになると、スラスラと文章が読めるようになる子どもと、「文字」は読めても文章が読めずにこの「言語環境川」を渡るための手助けが必要な子どもがいます。日常にあふれている「話し言葉」は、子どもたちも抵抗感なく受け入れられますが、「書き言葉」は子どもたちの中にはない特別な言葉で、抵抗感があります。この抵抗感を取り除くために、「読み聞かせ」をして、耳から「書き言葉」を入れてあげることがとても大切です。「感想文の本」も最初は読んであげてよいのです。少しずつステップアップさせていってください。

「自分から読む山」・・・「言語環境川」を越えた子どもは、お話は楽しいものだということを十分味わっています。自分で本を楽しく読む力が育っていますので、楽しい本をたくさん用意して、子どもが読みたがる本を中学年の時期までは読ませてあげてください。

しかし、高学年の頃になるとそれまで楽しく読んでいた「怪傑ゾロリ」などの本が面白く感じられなくなり、「自分から読む山（別名：ゾロリの壁）」が立ちはだかります。この山を乗り越えられないと、「読書の自立」はありえません。この頃になると、子どもは「本には作者がいる」ということに気がつくようになってきます。「この作者の話は面白いから、同じ作者の別の話を読んでみては」などと、「作家もの」「シリーズもの」に興味を向けさせると、子どもは自分でどんどん読めるようになっていきます。子どもの読書の特性を知って、本を揃えていくということが大切です。

「考えるために読む山」・・・中学・高校の頃に超えなければならない山です。これを超えて初めて「読書の自立」となります。「自分から読む山」と「考えるために読む山」の間には「谷」があります。「クラブ活動の谷」と「受験勉強の谷」です。この「谷」にどっぷりはまってしまうと、なかなか読書をする余裕がなくなります。高校生くらいになると、友達の影響によるものや先生から勧められた本などに「よい本」があつたりします。きっかけは何でもいいので、夏休みなど、時間に余裕のあるときに、今まで自分が読まなかった本を読むことによって、「読書っておもしろいな」と思ってもらえるといいなと思います。まずは、読むことが大事です。最終的にこの山を越えることができたなら、「知的な職業に就く」とか「人生が豊かになる」とか真の「読書の自立」にたどり着くことができます。その時期、その時期に必要な支援を周りからしてあげることが大事なのではないかと思えます。

2. 本を選ぼう

【どんな本を選んだらよいか？】

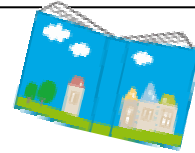
「子ども自身がおもしろいと思う本」を選ぶのがベスト！本屋さんで1～2ページ立ち読みしてみて、おもしろそうと思う本を選んでください。

【「おもしろい」とは？】

「読みやすいこと」が「おもしろい」ということではありません。「意見が語れる本か。感想が書ける本か」という視点で選びましょう。お母さん・お父さんも一緒に読んで、「この本、おもしろいよね！」と言ってあげられる環境があるとよいと思います。子どもがおもしろそうと思った本は、とりあえず借りるか、買ってあげてください。

【それでも見つからないときは…】

- ☆国語の教科書で読んだ物語の作者が書いた別の本を探してみる
- ☆自分の興味があるもの（スポーツやファッションなど）から探してみる
- ☆課題図書から選んでみる（その学年にふさわしい本が多い）
- ☆指定図書から選んでみる（読書感想画を描くための本だが、きちんと選考されたものなので、一定のレベルを満たしている）
- ☆選定図書から選んでみる（山口新聞社主催のコンクールのための本）
- ☆「わたしの読書」を参考にする（青少年読書感想文コンクールの入選作品が掲載されている。1月頃製本され、学校を通じてのみ購入できる）



【 過去5年間の「わたしの読書」入選作品の傾向 】

- ・課題図書を選んだものが最も多い（「課題図書の部」があるため）

《低学年》

○家族（兄弟の誕生や祖父母のこと）をテーマにした作品

〔（例）自分が小さい頃、祖父が「大丈夫、大丈夫」と言って励ましてくれた。今はその祖父が病気で入院しているから、今度は自分が励ましたいなど〕

○からだのふしぎ

○昆虫のふしぎ

〔（例）本の内容と「セミの観察」をリンクさせて書く〕



《中学年》

○友情をテーマにした作品

※ギャングエイジに入り、友達と遊ぶことが楽しくなるため

○楽しそうな本

○福祉関係の話題をテーマにした作品

※中学年になると総合学習で福祉の勉強をするため（盲導犬やからだの不自由な人のこと、バリアフリーの話など）

○「ファール昆虫記」や「ヘレンケラー」などの伝記の本になります。

○伝記も、今の流行は、「イチロー」や「松井秀喜」などより身近な人物に移行してきています。

《高学年》

○戦争をテーマにした作品

※6年生になると「平和学習」をしたり、修学旅行で原爆や戦争について学ぶため

○友情をテーマにした作品

※「いじめ」についてリアルに追及した作品などに共感できるようになってくるため

特に、女の子は友情の本を選ぶ傾向がある

〔（例）「ふたりのイーダ」（定番）… 平和・戦争
「ハッピーバースデー」… 特に女の子は共感する子が多い。〕

○「いのち」をテーマにした作品

※自分の体験談をもとに語りやすく、どの学年にも共通してある

3. 本を読もう

【「読んだらすぐ書く」は絶対にダメ】

- ・絶対にやってはいけないのが、「読んだらすぐ書く」ことです。これほど辛いものはないので、気をつけましょう。また、読みながら書くというのは「もってのほか」です。本を読むのは、**夏休み前半**を意識してください。

【ふせんとメモを使って構想を練ろう】

- ・1回目・・・まずは、サーッと読んでみて本を決めましょう。
- ・2回目・・・「本」が決まったら、読むときに「こイイナ！」と思うところに大き目のふせんに簡単なメモをして貼っていきましょう。そして、このふせんをもとにメモを作りましょう。
- ・構 想・・・メモを元に構想を練っていきましょう。このひと手間があるかないかで大違いです。面倒な作業に思えますが、これをせずにいきなり書き始めると、必ず途中で止まってしまいます。構成がはっきり決まっていると、ゴールが早くなります。さらに、ふせんも色分けしておくと、後で分かりやすいと思います。

- どんなあらすじだったか？
- どんなことを感じたか、考えたか？
- 心に残った場面はどこか？
- 不思議に思ったところ、疑問に思ったところは？



ふせんをもとにメモを作りましょう！

【本を読んだ感想について、家族や友だちと話し合おう】

- ・感想は、独りよがりなものなので、違った角度から感想を入れてあげることが大切です。そのために、お家の人もその本を読んで、子どもが気づかない部分を、会話の中から引き出してあげましょう。「どんなところがおもしろかった？」とか「お母さんはこの主人公はこう思うよ！」など、家族で意見を言い合うと、子どものものの見方が深まります。

4. 感想文を書こう

子どもは、感想文はものすごく難しいものだと思っています。でも、感想文は、つきつめると「あらすじ」と「感想」できています。これに、最初に「書き出し」をつけて、最後に「まとめ」を入れてあげると感想文は完成します。

(1) あらすじの書き方

- ・感想文に多いのが、「あらすじ」⇒「面白かった。」⇒「あらすじ」⇒「楽しかった。」のようなパターンです。
- ・よりよい感想文は「なるべくあらすじをコンパクトにまとめて感想をふくらませたもの」です。

1. だれが（どんな登場人物が？）
2. どこで（舞台はどこ？どんな場所？）
3. いつ（いつの時代のできごと？）
4. なにをした（どんなことが起こったか）
5. それはなぜか（どうして4のようなことが起こったのか）



(2) 感想の書き方① ～「くもの糸」の一場面から～

アイテア1 「なぜそう思ったのか」を書いてみる

カンダダはばかだな。（これくらいしか子どもは言わない）

⇒これに「**地獄におちても、ちっとも反省しないのだから**」を加える。

アイテア2 「どんな場面からそう思ったのか」を書いてみる

カンダダはばかだな。地獄におちてもちっとも反省しないのだから。

⇒これに「**下からクモの糸をのぼってくる罪人に『おりろ！』といった場面で、とくにそう思った。**」を加えてみる。

アイテア3 「登場人物と自分をくらべてみる」

カンダダはばかだな。地獄におちても、ちっとも反省しないのだから。下からクモの糸をのぼってくる罪人に「おりろ！」といった場面で、とくにそう思った。

⇒これに、**ぼくだったら「つかれたから、先に行っていよいよ。」**と言うと思う。と加えてみる。

感想の書き方②

・困ったときの『な・た・も・だ』をいれてつなげてみる。これを覚えておくと、また感想文がふくらんでくる。

- な … なぜなら
- た … たとえば（僕だったら・私だったら）
- も … もしも
- だ … だから（～だと思った）



感想の書き方③

・言葉の言い換えをすると文章がふくらみます。

（例）「おもしろかった」のバリエーション

- ・おもしろい本でした
- ・ゆかいな本でした
- ・物語の世界にぐんぐん引き込まれました
- ・最初から最後まで一気に読んでしまいました
- ・読み終えてしまうのがもったいないように思ったほどです
- ・読みながらゲラゲラと笑い転げました
- ・ぷっと吹き出しました
- ・にやりとしてしました
- ・「最高だ」思わずそうつぶやいた

（例）「悲しかった」のバリエーション

- ・悲しいお話でした
- ・かわいそうでたまりませんでした
- ・とても切ない気持ちになりました
- ・心が痛みました
- ・むねがしめつけられるような思いでした
- ・涙が止まりませんでした
- ・わたしにはとてもたえられないと思いました
- ・やりきれない思いが心に残りました

（例）「うれしかった」のバリエーション

- ・うれしくなりました
- ・なんとすばらしいのだろうと思いました
- ・おどろだしい気分になりました
- ・ハッピーな気分になりました
- ・こころがはずみました
- ・自然と顔がほころびました
- ・「よかったね」そう言ってあげたかったです
- ・「がんばったね」わたしは声に出していました

（例）「こわかった」のバリエーション

- ・こわかったです
- ・恐怖を感じました
- ・せすじがぞっとしました
- ・体にふるえが走りました（体で恐さを表現）
- ・ひざががくがくふるえました
- ・目をつぶってもその光景が頭から離れませんでした
- ・後ろに何かいるような気がしました
- ・夢に出てきたらどうしようと思いました

（例）「ドキドキした」のバリエーション

- ・ドキドキしました
- ・わくわくしました
- ・はらはらしました
- ・息をのみました
- ・手のひらにあせをかいてしまいました
- ・胸の高鳴りをおさえられませんでした
- ・スリル満点のお話です
- ・その先、何が起るのか予想もできませんでした

（3）書き出しの書き方

- （例）
1. 本の紹介から書き出す。
 2. 感想や会話文から入る。（入選作品に多い）
 3. 本を読んだきっかけから書き出す。
 4. 本の作者や、作者が書いた他の紹介から書き出す。

・感想文が苦手な子は、あらすじから書き出し、「あらすじ⇒感想⇒あらすじ⇒感想」で終わるパターンが多いです。

- ・次に多いのが、「本屋で見つけて面白そうだったから選びました」から入るパターンです。
- ・よい作品は、書き出しがとても印象的な作品が多いと思います。
- ・「この本と出会って自分がどう変わったか」を加えると、レベルの高い、ひとつハードルを越えた作品になります。(低学年には難しいが、高学年になるとできるようになる。)

(4) まとめを考える

- (例)
1. 本の感想で終わる
 2. 作者の考え方や本のテーマが何かをまとめる
 3. 本をきっかけに、考えたことや反省、目標を書く
「僕(私)もこういうふうになりたいです」など
 4. 「もしも～だったら」で終わる「もしも〇〇だったらこんな世界が訪れたでしょう」など

- ・低学年だったら、登場人物に投げかけるような終わり方「～だったらいいな」にしてもよいと思います。
- ・中学年や高学年になったら、「自分はこうありたい」などで締めくくってもよいでしょう。

(5) ワークシートを使って書いてみよう！

(例1)

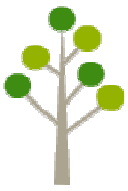
1. 本の題名(書き出し)
2. この本を読もうと思ったわけ(書き出し)
3. この本の主人公について(あらすじ)
4. 自分と主人公が似ているところ(あらすじ)
5. 一番心に残ったこと、または、この本を読んで伝えたいこと(感想・まとめ)

《 感想文の心得 》

- ・原稿用紙の使い方について ※コンクールにより字数が違うので注意!!
- 1. 読書感想文コンクールに出したい作品は本文から書き始めましょう。題名・氏名は含まないので、欄外・出品票に書きましょう。
- 2. 青少年読書感想文コンクールの原稿用紙は「B4サイズ」という規定があります。
- 3. 原稿用紙3枚(1・2年は2枚)の最後の行まできっちり書きましょう。(残りが3行以上あいていたら、それだけで審査の対象になりません。字数を超えてもダメです。)

5. 終わりに(前田先生からのメッセージ)

- ・「わたしの読書」などの入選作品を読んでみましょう。いい作品を読んで、年齢にあった文章を書きましょう!
- ・親子読書を楽しみましょう。1つの本を共有する喜びをぜひ味わってもらいたいと思っています。本の感想を話し合ったり、親子で何かをする時間は意外と短いものです。本について語れる時間は一瞬です。夏休みは、ぜひ「読書を通して親子がつながる」「一つの本を共有する」という喜びを味わってください。



受講生の方からいただいた貴重なご意見の一部を紹介します



- 毎年夏休みの宿題で、親子で泣きながら苦しんできた読書感想文の書き方の講座。「目からウロコ」で、今年は感想文が書けそうな気がします。ハードルを低く具体例を次々に教えてください、本当にありがたい夏休み第1日目でした。時間に追われないよう、期限を前倒して、親子読書（感想を言いながら）をして、乗り切っていきたいと思います。
- 夏休みの宿題対策としてはもとより、本を読むことの楽しさ、すばらしさと、読むことによってふくらむ心の世界の無限の広がり方を教えていただき、大変有意義なものでした。
- 私自身が読書感想文を書くことにとても抵抗があり、苦い経験をしてきました。毎年、夏休み最後まで残っており、親も大変だったと…。娘が、「読書は好きなのに感想文が書けない」ということから聴講させていただきました。要点が理解しやすく、頭にも体にもスーッと入ってきました。子どもとの関わりを大切に、この夏休みを過ごしていきたいと思います。ありがとうございました。
- とても実践的で分かりやすく良かったです。このような講座を増やしてほしいです。
- 何より自分が本嫌いで、訓練できていなくて書けない人でした。今後は感想文に限らず、職場でのレポートなどにも応用できそうに思いました。とても引き込まれる講義でした。ありがとうございました。
- ご自分の子育てやお仕事での実体験をおもしろく、そしてわかりやすくお話していただき、あっという間の時間でした。感想文への苦手感がやわらぎ、子どもへ自信をもって助言できそうです。これからも本が好きであり続けられるよう、親も読書を楽しみたいと思いました。
- 毎年、感想文を書くための「合宿」をしています。（実家の帰省をこのように呼ぶ…）こちらが決して“イライラ”しないよう、そして集中力がとぎれた時の“ケア（笑）”が本当にもう大変です。でも、最後におっしゃっていた「小学校の今しかない関わり」として大切な時間を過ごしたいと思います。
- とてもわかりやすく勉強になりました。たくさんのコツを知ることができたので、さっそく取り組んでみたいと思います。
- 子どもの宿題だから、子どもまかせでいいのかと思っていましたが、親子で取り組まないといけないと思いました。今年は、がんばってみたいと思います。各学校でも、こうした親向けの勉強会があれば、読書感想文も書きやすくなるんじゃないかと思いました。
- 楽しい、分かりやすいお話をありがとうございました。この夏、子どもと本を読む楽しみができました。ありがとうございます。また、先生のお話を聞かせていただきたいです。
- 毎年、本人も親も大変な思いをして「感想文」を仕上げていました。今年は、最終手段も教えていただき、少し気が楽になりました。具体例があるので、参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。
- 楽しく一緒に「感想文」に取り組めそうです。子どもが好きな本を読んでもらいたいと実感しました。（いつも私が選んでいました）2才～3才の頃からしてきた読み聞かせに深い意味があったことがうれしかったです。

ありがとうございました

